

にゅとぴあ 岸和田

岸和田市国際親善協会だより

ifa きしわだ



世界の国から、 こんにちは!

No. 117

城どだんじりのまち岸和田!

過去最高記録の訪問者

2018外国人のためのだんじりインフォメーションセンター

岸和田市国際親善協会は今年創立30周年記念を迎え、いろいろな関連行事が行われています。その一環として、今年で28回目を迎えた「外国人のためのだんじりインフォメーションセンター」が、岸和田駅近くで9月15日（土）、16日（日）開設されました。

言語別だんじりマップは内容も改訂され、従来の英語版、スペイン語、フランス語、ポルトガル語、中国語版（2系列言語）、韓国語版、インドネシア語版に、ベトナム語版と日本語版が加わり、世界の数ある祭りの中でも、他に類を見ない9か国語版のだんじり情報



国際色豊かに賑わうだんじりインフォメーションセンター内の様子

満載の多言語マップが出来上がりました。

事前に海外から直接事務局宛にアクセスや曳行ルートなどの問い合わせが多数ありました。

開設当初とは違って、スマホを片手にビデオや写真におさめ、その場で瞬時にして、世界に向けてネット配信する時代となり、今や世界に馳せたる祭りとしてすっかり定着しました。しかし今夏は度重なる豪雨、酷暑、北大阪地震、更に祭り直前に来襲した台風21号、北海道胆振東部地震の爪痕は大きく、あらためて災害国日本を世界へ認識させることになりました。そしてその影響による外国人観光客の激減と関西国際空港国際線の完全復旧の見通しがたたない状況下、訪問者は激減するのではないかと危惧していましたが、33か国、263名と開設以来、最高記録の訪問者を迎えました。

たとえ十分に言葉が通じなくともスタッフと語らい、紅白の鉢巻きに法被を羽織り、大団扇を持った記念写真が、何よりのお土産になったことでしょう。素晴らしい国際交流の場となりました。

(広報部会)



「にゅとぴあ岸和田」は世界の人びと、団体、都市との出会いを求め、ふれあいを大切にしたい親善・交流を通してお互いの連帯を深め、世界の平和と繁栄、人びとの幸福の増進のための貢献を目的とした、岸和田市国際親善協会の活動記録とメッセージの発行物です。

30th Anniversary



Since 1989

ifa きしわだ
岸和田市国際親善協会

おもてなし **ひと言** コメント

だんじり **2018外国人のための** インフォメーションセンター

300有余年の歴史を持つ岸和田だんじり祭は昼間の勇壮豪快さ、夜間の提灯に飾られた平和的な雰囲気の中で、秩序正しい統制のもとに運営され、すべての町民が一体となって参加する祭りは、インターネットを通じてすっかり世界の祭りとして定着しました。

今年は直前の台風、地震等の自然災害や閑空復旧遅延にもめげず、訪問者は過去最高の33か国、263名でした。

そのコメントの一部をご紹介します。

(広報部会)



1 番乗りハンサム外科医！
(イスラエル)

名門ヘブライ大学医学部出身デミトリさん。今まで何度もヨーロッパのアルプスに挑戦したアルピニストでもあります。3度目の日本訪問ですが、とにかく日本の山、景色が大好きで穂高、槍ヶ岳に登山したこともあるそうです。今回も1か月の予定で、松本～乗鞍から京都（伏見稲荷）のあと、YouTube 動画で魅せられた岸和田だんじり祭りを目のあたりにして、こんなエキサイティングなお祭りは初めてだそうです。明日は世界遺産の熊野歩道へGO!



TV取材クルーが逆取材された！
(フランス)

フランステレビ局ミルベインさんとマキシムさん。2週間の滞在中、偶然台風21号と北海道胆振東地震の2つの大きな自然災害を経験し、貴重な画像もたくさん撮れたそうです。当センターで取材するつもりが、逆に当方からいろいろ取材を受けました。スタビライザー付きビデオカメラ2台、デジタルカメラ4台、ドローンとフル装備。大きな荷物をセンターに預けだんじりが疾走する町中へ取材開始。ドローン画像は許可せず、空中画像はNO。

日本語弁論大会優勝！
(ウクライナ)

レドチュクさんはウクライナ国立大学で日本語を専攻している学生です。国際交流基金の日本語弁論大会で優勝し、成績優秀者の訪日プログラムで、関西国際センターで研修を受けています。努めて日本語を使おうとしているレドチュクさんは、和食は何でも大好きで、これからも日本文化について学び、両国の国際交流の架け橋になるという夢を持っています。だんじり1台にすくく大勢の人たちが関わっているのが印象的だと話しました。



閑空再開1 番乗り！
(ニュージーランド)

自然一杯の北部ベイ・オブ・アイランズ出身の画家レスリーさん。バンコック経由でしばらく足止め、閑空国際便再開第1号で昨日14日到着しました。ニュージーランドも地震など自然災害が多いので、皆さんの不安な気持ちは十分に理解できますとのこと。まずは念願のだんじり見物でFANTASTIC！もう一つは世界中から現代アートファンが押し寄せる、人口3,000人の瀬戸内海に浮かぶ小さな島・直島で師匠についてしばらく滞在します。



日本食グルメのお嬢さんたち！
(スペイン)

来日2度目のバルセロナ出身の仲良しマルタさんとセサルさん。一瞬の呼吸を大切に「やまわし」は「闘牛士」の一瞬に牛をかわす俊敏力と相通じるところがあります。闘牛が年々衰退する一方、同じ伝統を持つだんじり祭りはずっと守りつづけて欲しい。もう一つの楽しみは日本食の食べ歩きです。特に、たこ焼き、うどんは大好き。ホテルは？と聞けば、私たちが知らない貝塚にある新しいホテルです。スタッフが早速ネットで検索したが、。。。。

突撃ラジオ・インタビュー！
(ドイツ)

世界有数の自動車産業の中心シュツットガルトから来ました、イサベラさん、リアさんご夫妻で2週間の予定で日本をハネムーン中です。お2人ともハリーポッターなどを手掛けたこともある3Dアニメ・クリエイターで、もともと宮崎駿さんの「風の谷のナウシカ」に感動して、アニメ製作の世界に入りました。突然のラジオ生放送のインタビューでしたが、小さなマイクとマイクアームだけで質問するラジオ局員に少し戸惑った感じでした。

遠い国からどうして だんじり祭りを見物に？ (カナリア諸島)

ホセアさん、リブさんご夫妻の出身地は、アフリカ北西モロッコに近い大西洋上に浮かぶ7つの島からなるスペイン領の火山群島で、日本との関係は深く、まぐる漁業の遠洋漁業基地として沢山の日本人が駐在しています。岸和田だんじり祭りは日本人からの勧めで見物に来ました。来日ルートはラス・パルマス～マドリード～成田でイベリア航空です。日本では高層ビル



が多いのでびっくりしています。今から岸和田城へ行き、明日は姫路城です。



関空からアクセスが 大変でした！ (タイ)

バンコク在住のヌンタワンさん一人旅の女性。4回目の来日で、過去には神戸や京都など、各地を観光したけれど、ウェブサイトで見ただんじり祭りを是非とも見たいと思い、今回は岸和田と高野山を訪問するという3日間滞在の弾丸旅行だと話してくれました。台風被害の影響がまだ残っている関西空港からのアクセスが大変だったそうです。当協会からのハチマキと団扇のプレゼントをすごく喜んで、笑顔でだんじり見物に出かけて行かれました。

日本の介護福祉士を 目指しています！ (インドネシア)

リズキさんは病気で母さんを亡くしてから、病気で苦しみ、介護を必要としている人々を助ける仕事に就くことを念願としています。来日まだ1年です。日本で介護福祉士の国家試験を受ける資格を得るためにあと2年実務経験を積む必要があります。同時に日本人でも難しい難解な医療用語を勉強中です。今日は岸和田だんじり祭りを楽しみに、奈良県香芝市



から来ました。2020年国家試験に合格したら東京五輪を見に行くことが夢です。

岸和田で出産へ、医療通訳 ご心配なく！ (メキシコ)

ローザさんは国際結婚で南町在住です。来月岸和田で出産予定で、お母さんが心配で遥々メキシコシティから駆けつけました。無痛分娩を希望なので、一般の産婦人科を予定しています。これからいけると医療保健通訳が必要だと思いますので、私の連絡先を渡した処、とても喜ばれていました。しかし未来の赤ちゃんはお腹の中で、だんじりのものすごい太鼓の音と



大歓声に驚いていることでしょう。将来間違いなくだんじり好きな子どもになります。



岸和田だんじり祭りで 大合流！ (アメリカ)

名前はアンナ、ラユナ、アンドリュウ、エリルさん。出身地はイリノイ、オレゴン、ミズーリ、ミシシッピ州。日本での滞在地は松阪市、大洲市(愛媛)、柏原市、岡山市。皆さんバラバラ。皆さん何の仲間？皆さん名門シカゴ大学出身同窓生です。皆さん中学校、高校のALTです。なかなか会う機会がないので、中間地にある岸和田だんじり祭りで合流することになりました。だんじり1台コスト 1.3 MILLION US DOLLARS 以上と聞いて驚愕。

空手初段の ストロング・レディ！ (アイルランド)

クラレさんとシャラさんは、東京～京都～奈良～大阪～広島～東京2週間の旅程でハネムーン中です。奥さんシャラさんはカナダで留学中、日本文化について研究している中で、西洋にはない martial arts 空手に興味を持ち、習い始めました。そして現在まだ初段ですが、ご主人クラレさんは戦々恐々？と質問すれども、No! No! No! と大真面目で否定。正式種



目になった東京オリンピックでは世界レベルの空手を是非見たいとのことでした。

地震国日本を 身をもって体験！ (オーストラリア)

メルボルンから来たロシーさんとステイシーさんの女性二人組。東京、北海道を観光後、大阪へ。釧路滞在中に胆振東部地震を経験し、「就寝中突然で、すごくびっくりして、ショックだった」と語ってくれました。インスタグラムでだんじりを知って、ぜひ見てみたいと思い、岸和田へ来たそうです。4週間の予定で日本各地を観光したけれど、「岸和田が一番！」と



明るく話してくれました。「だんじりの屋根で踊る人を見るのが楽しみ！」だそうです。

「外国人のための だんじりインフォメーションセンター」訪問者内訳

《国別》

①インドネシア	33人	②フランス	25人
③スペイン	21人	④イスラエル	20人
⑤オーストラリア	18人	⑥ドイツ	16人
⑦アメリカ	15人	⑧台湾	12人
⑨メキシコ	11人	⑩イギリス	10人
⑪中国	10人	計33か国	263人

《言語別》

①英語圏	47人	②スペイン語圏	36人
③インドネシア語	33人	④フランス語	25人
⑤中国語圏	27人	⑥ヘブライ語	20人
⑦ドイツ語	16人		

岸和田市国際親善協会と岸和田市行政との コラボレーションに向けて

7/26
(木)

在住外国人は増加の一途を辿り、現在約250万人で全人口の2%に占めています。一方岸和田市では約2,200人、1%で全国平均の半数以下となっており、外国人にとっては決して住みやすい街とは言えません。少子高齢化社会が進み、近い将来労働力不足を外国人に依存せざるを得ない状態が予想される中、岸和田市においても早急に安心して住める社会の構築が必要です。

このような状況下、岸和田市国際親善協会の活動状況をご理解いただき、更なる市行政とのコラボレーションを要望することを趣旨として、当協会から会長、副会長、事務局長と日中友好協会会長が出席しました。（広報部会）

1. 活動状況の報告

- 外国人との出会い・ふれあいを通じて会員の国際意識を高める事業で、岸和田東ロータリークラブの支援のもと、「地球どんぶり」の名称で幅広い交流を図っている。
- 日本語を母語としない外国人に対する日本語学習支援の場である「日本語サロン」は、市内5か所で開かれている。この指導に当たるのは2年間の養成講座で基本技術を学ばれたボランティアである。
- 当協会の広報機関誌である「にゅ〜とびあ」を年4回発行し、大阪府下の主な国際交流機関と諸団体、岸和田市内の主な公的機関、団体、学校、会員等々へ活動状況を発信している。7月には当協会設立30周年記念誌の発行している。

- 外国人のためのだんじりインフォメーションセンターを設置し、岸和田だんじり祭りを世界に発信している。
- 外国語学習の一環として、「English Open Café」、「カンガルークラブ」、「あすなるクラブ」、「初級英語クラブ」の開設、外国文化を知るための「異文化理解講座」、「地球村クッキング」への参加と日本文化の理解のために「きものクラブ」を設置。

- 外国人市民のための防災訓練と英文 / 和文併記の防災ハンドブック、「1日相談会」、「ホームステイ・ビジットの受け入れ家族」、帰国・渡日児童生徒の学習支援と交流のための「Mixed Roots」等の外国人サポート活動を実施している。



岸和田市

- 医療、教育、行政分野におけるボランティア通訳及び翻訳業務を担っている。
- 市民フェスティバルへの参加、泉州国際マラソンの選手サポート、姉妹都市との交流を図っている。

2. 課題と市行政への要望

- 岸和田市国際化の指針策定から20年以上が経過しているが、現状に合った市の総合的な国際化施策計画を更新し、充実を図る。

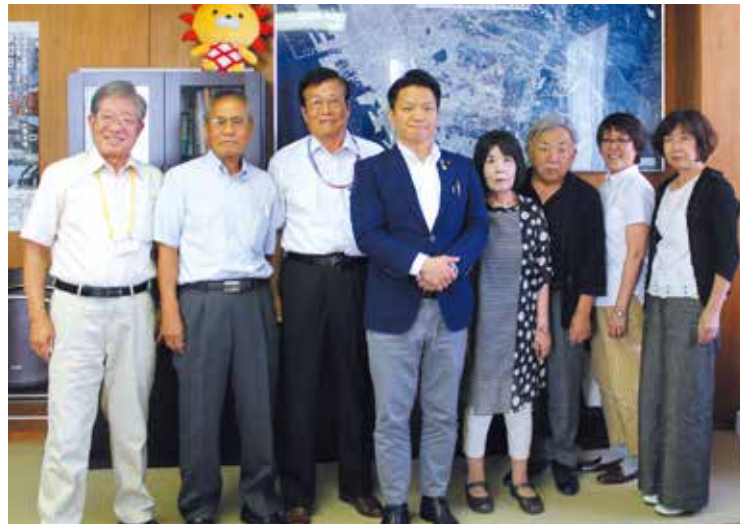
- 市文化国際課の「国際部門」と「文化部門」を切り離して、専任の担当長を置き、異文化共生社会に対応を図る。

- 市窓口業務職員と管理職員の意識スキルを目指して、外国人の人権研修や外国語研修の実施。

- 病院、保健センター、学校、市役所における多言語による対応の体制構築。

- 外国人市民への住民情報サービスの向上を図る。

- 岸和田市国際親善協会、日中友好協会、日韓親善協会に対する育成助成金の継続維持。



姉妹都市サウスサンフランシスコ市 青少年受入れ事業ホームステイ受入

6/4
~10
(火~月)



今回私たち家族は、サウスサンフランシスコ市の高校生ウィリアムをホストファミリーとして受け入れました。最初の数日は、コミュニケーションもごちなく、お互い少し緊張していましたが、小学2年生と3年生の息子達と、トランプをしたり、一緒に空手教室に参加したり74歳の私の母と料理をしたりするうちに、通訳アプリを使って積極的にコミュニケーションを取り、笑顔が増えていきました。私たちもウィリアムを通して、アメリカの高校生の日常生活を垣間見ることができ、興味深かったです。

帰国日前日には、日本の同じ年の高校生4人遊ぶ機会をセッティングし、彼らとスポッチャへ行き横綱ラーメンを食べて帰ってきました。それは、ウィリアムにとってとても楽しい経験になっ



たようで、彼らとも keep in touch の約束をしたそうです。帰国日の午前中には、小学校の日曜参観へ行き、日本の小学校の授業風景を見学しました。小学校の先生方もウィリアムに気付き、紹介してくれる場面もあり、彼にとって思い出深い経験になってくれたと思います。

今回、実は、私の仕事が忙しく、家族で私以外は英語が全くしゃべれないので受け入れを希望するか悩んだのですが、終わってみると心配していたことはほとんど問題なく思い切って受け入れてよかったと思います。たった一週間でしたが我が家の子供たちは、アメリカという今まで遠かった国の文化を肌で感じ、英語でジャンケンをし、学校でそれを紹介することができました。ウィリアムと時間を過ごした高校生たちも、国は違えど、たくさんの共感するポイントがあったと聞きます。多くの実りがあったこの事業に、また来年も参加できたらと思いながらウィリアムを送りました。(濱谷 蘭)

関西国際センター「東南アジア日本語 教員養成大学移動講座（ベトナム） ホームビジット受入れ

6/21
(木)

日本語パートナーズ



《わが娘のように!》

今回、久しぶりにホームビジットをお受けしました。ベトナムからの日本語教員のグエン・ティ・ホン・ゴックさんです。センターにお迎えに行った時から、ていねいにごあいさつをしてくれて「さすが先生!」と感じました。日本語はペラペラで、すぐに打ち解けてスムーズにお話できました。

うちには犬が一匹いるのですが、一緒に散歩にも出かけました。その道すがら、「授業の導入に」とポスターや看板をカメラに収めていました。夕食は、日本の家庭の味のカレーを食べました。まるで娘が帰ってきたようなそんなうれしい気分でした。一緒に食事をしながら、ベトナムのこと、大阪のこと、テレビやお笑い、アイドルのこと・・・いろいろ話が盛り上がりました。お腹を抱えて笑って、「腹筋なくていいくらい笑いました。」とゴックさん。ユーモアのある素敵な先生だと感じました。初対面だとは思えないくらいなごやかな時間が流れました。日本、そして



エルムンドとはスペイン語で「世界」を意味します。国際化の時代にあわせ世界のカルチャーファッション、旅行、ライフスタイル等々がどんどん変わりつつあります。その中で皆さんが日常生活で感じたことを題材にとらわれず、自由に投稿していただくという趣旨のコラムです。

《JICA 国際活動を経験して》



皆さん、JICA（国際協力機構）のシニアボランティアをご存知ですか。40才～69才で自分の持っている「技術・知識・経験」を開発途上国で生かすのです。かつて夫は、ポリピア（日系協会連合会）、パプアニューギニア（投資促進公社）、パラグアイ（商工省）に派遣され、日本人移住100周年記念式典、100周年誌の発行、市場開拓、輸出促進のアドバイザーとして勤務しました。定年後の仕事にはもってこいの職場でした。現役時のように敷かれたレールの上を走るのではなく、自分の敷いたレールの上を走るにはやりがいがあったようです。

気候は熱帯、亜熱帯であり勤務時間はパプアでは午後4時まで、パラグアイでは午後1時まで（公務員の給料が安く午後からは別の職場で勤務）。ポリピアでは100周年が間近に迫った頃は毎夜11時頃まで事務所やホテルで準備に追われていました。定時は5時ですが日系人の諸問題とも向き合っていました。（例、戸籍を売った人がどうすればまた戸籍をとりもどせるかなどなど、貧困ゆえの問題多数）



1999年～2007年はJICA一筋でした。この間にチュニジアの選考試験に落ち無職の日々もありました。随伴家族としての私もポリピアで日系人の小学生に日本語のボランティアをしました（日本人会に併設されている日本語学校で）。日本からの移住者が多いこの南米の二カ国は特に思い

出深いです。お米、野菜はおいしくトマトも「桃太郎」があるのに驚きました。「もやし」「柿」は日本語で通じるのです。「エンバナナダ」や「チバ」のスナックは至る所に売っているのです。街路樹に咲き誇る「黄金の雨」や「火災樹」の花の鮮やかな黄色や強烈なオレンジ色は周りのインフラの不備を忘れさせるほど豪華なものでした。「Qué/ケ」をよく使うスペイン語は気どらない岸和田弁のようで好きです。現在も私はスペイン語を学んでいます。現役時に駐在した国々とは違い、人々の暮し、生活環境は昭和20年代後半～30年代前半の日本のように感じながら過ごしたシニアボランティアでした。（堺 徳子）

日本語を好きになってくれたゴックさんに感謝です。日本人としてとてもうれしく思います。

あっという間にお別れの時間になっていておどろきました。「もっとお話したいね。」と言いながらお別れすることになりました。ゴックさんが、「お母さんはお友だちとしゃべっているみたいでいっぱいおしゃべりできました。」と言ってくれました。

今まで10名程のホームステイ・ビジットをお受けしましたが、いつも感じることは「家に居ながら世界旅行をしている気分になれる」ということです。その出会いに感謝です。ゴックさん、ずっと日本を好きでいてね。またお会いできるのを楽しみにしています。（林 君代）

6/16 Burton Bialek さん
(土) (アメリカ)

今回は、EOC に2回目のゲストとして来てくださったアメリカ出身の Burton Bialek さんでした。日本に来て 30 年以上になるという彼ですが、それまでに色々な国へ行かれ沢山の経験をされた波乱万丈の人生の方です。

生まれはニューヨークですが、民族的にはユダヤ人で、ご両親はそれぞれポーランドとブルガリアから合衆国へ移住されたそうです。彼は若いころ結婚されましたが、60 年代半ばに軍隊に入り、韓国に1年以上駐在し、その経験がこれからの人生をアジアで過ごしてみたいという気持ちを育んだそうです。

韓国駐在後アメリカに帰国しますが、その当時のアメリカは多くの若者がヒッピー文化に傾倒していました。さらに、60 年代後半は彼にとって試練となる出来事が重なります。それは離婚と両親との死別でした。

その後アジアに興味があった彼はネパールへ旅行し、そこ



で仏教やヒンドゥー教を学びました。しかし、ネパールで肺炎にかかり、宣教師の病院へ入院され、キリスト教に興味を持ち 75 年に洗礼を受けられました。その後ネパールを去り、宣教師としてヨーロッパ、中東の国々を訪れられています。

84 年に英語教師として来日、日本人女性と結婚され、それ以来ずっと日本に住まわれています。22 年前から結婚式の牧師としても長い間務められましたが現在は退職、英語は今も教えていらっしゃいます。お話の後には、ご家族の写真や彼の若い時の写真まで見せてくださり、さらに時代背景を交えながらのお話しでしたので、その時代の状況を思い浮かべながらお話を聞くことができました。
(畠中 智子)

7/21 Fe Montuya さん
(土) (フィリピン)

7 月のゲストはフィリピンの Fe Montuya さんで、泉佐野在住 26 年、とても明るく、前向きで正義感があり、熱心に日本語を学び、看護師になった努力家です。看護師歴 11 年で現在は、りんくう永山病院で働かれています。

フィリピンは大小 7107 の島国です。公用語はフィリピン語(タカログ語)と英語ですが、また各地に独自の言語が多数あり、話す言葉で出身地がわかります。日本と関わりも深く、じゃんけんぽん、カトール(蚊取り線香)の日本語も、日常使われています。

人口は約 9230 万人で、種々の民族が混じって地域により違った肌の色、顔の形をしています。ほとんど年中夏ですが、雨季と乾季があり、旅行するなら乾季の 12 月~2 月がお薦めです。植民地時代のスペイン、アメリ



カの影響を受けた料理の写真もあり、レチョン(豚の丸焼き)アボド(煮込み料理)デザート(ハロハロ)などは、美味しそうです。伝統的な武術であるアルニスを学んで、棒の代わりに傘を利用して自衛手段に役立っているという色々楽しいお話も聞きました。

今回私達は、日本語と英語で興味深くお話を聞けたので、リラックスした雰囲気と有意義な一時を過ごすことができました。サラーマット、ありがとう。
(岸村 祥子)

8/18 Rabee Alhossiny さん
(土) (エジプト)

今月のゲストは、University of Sadat City で助教を務められている Rabee Alhossiny さんです。とても優しい眼差しをされた方で、可愛い6歳と8歳のお嬢様を伴ってお出で頂きました。

「あなたはエジプトについてどんな事をご存知ですか?」とタイトルされたプレゼンテーションに、ピラミッド・スフィンクス・様々な古代遺跡・スエズ運河・イスラム教・・・等の単語のみが浮かんでくるだけで、それらはほんの上辺の事で、エジプトの詳しい内容については殆ど知らないのが私の現状でした。

冒頭に Rabee さんは、テレビニュース等の映像を映しながら話されました。テロや様々な戦闘や自爆事件等のマスメディア報道は、エジプトのわずかな部分、多分 0.1%



か 0.01% を現しているにすぎません。これらの報道だけでエジプト(だけでなく他の諸国)を理解してはいけません。

エジプトは人口約 1 億のアフリカ最大の国で、通貨はエジプトポンド(現在 EGP1=約 6.2 円)です。料理は、いろんな豆・野菜・鳥・魚類を使ったヘルシーなメニュー、モロヘイヤのスープや鳩料理やデザート等、沢山紹介して頂きました。

Luxor の遺跡等、カフェでの紹介はとても印象深く、瞬く間でありました。エジプトの私の現状は改善の一步を踏み出しました。
(藤田 正治)

春木サロンだより



日本語を話す、聞く、読む、書くの面での理解力不足の為、住居や会社を一步、外に出たら沢山の漢字を目の前にして理解できない。日本語能力試験への不安等の動機で、もっと日本語を勉強したいとサロンを訪れる。私たちは彼らとの会話と

学習の中で優しく分かり易く丁寧な説明により常に笑顔で楽しく日本語学習を支援し勉強のお手伝いをして、少しでも日本語に対する不安を減らすように努めています。90分の学習が終わり、笑顔で「ありがとうございました、さようなら。」と帰る彼らに私たちも笑顔で「さようなら」と声かけをして応えています。

7月11日(水)サロン生とボランティア合わせて26名の参加で交流ボーリング大会をしました。これは毎年行われるイベントで大いに盛り上がりです。日本語でのコミュニケーションの中で変な日本語を話したら笑われるかなあと思いながら一生懸命に日本語で、話しかけてくれる彼らに私たちは笑ったりすることなく彼らの言葉をそのまま受け入れながら、楽しい交流の一時を過ごしました。

当サロンでは東南アジア諸国との経済連携協定等に基づき、現在十数名が准看護師、看護師の資格取得のために日本語の勉強をしています。昨年より、各個人や受け入れ企業等により事情は異なりますが、技能実習生の3年間の在留期間が更に2年間延長されました。

技能実習生だけではなく、エンジニアとしての外国人の需要も増加していますので、私たちボランティアは多種多様なニーズ対応できるように様々な学習方法が必要であり、どんな場合でも「学習者と日本語で日本語の学習をする」この骨子はブレることなく変わることなく繋げていきたいと思っています。

春木サロン情報：現在、ボランティア 18名、外国人 41名 (春木サロン)
毎週水曜日 春木市民センター 2階 19:00～20:30



7/28
(土)

福祉総合センター日本語サロンが参加しました。ブースでは日本語サロンの活動をPRしながら、学習者の方々の出身国を中心にし

た「世界の国を知ろう!クイズ」を出展し、国旗や首都、「こんにちは」「ありがとう」という簡単な挨拶の言葉をその国の言語で紹介しました。福祉総合センター日本語サロンのボランティア全員で準備を進めながら、改めて学習者の方々の国のことについて勉強をし直し、当日も交代でPRを行いました。国旗でどの国かを当てるクイズは、子供たちだけでなく大人の参加者にもおおいに楽しんでいただくことができました。ブースを訪れた方々からは、どのようなボランティアが日本語を教えているのかという質問を何度か受けましたが、2年間の養成講座を経たボランティアが学習のサポートを行っていることとお話すると、大変感心されていました。参加者の方々には、多言語で作成している日本語サロンの案内についても興味を持っていただき、こんなに多くの国の方々が岸和田で暮らしながら日本語を勉強されているのかと、協会の活動やサロンの役割を知っていただく良い機会となり、また、いろんな団体やグループの方々が様々なサポートや取り組みをされていることを知ることができ、有意義な一日となりました。私たちは6月から福祉総合センターで学習していますが、このような機会を通して、これからも協会や日本語サロンの活動を多くの方々に知っていただき、いろんな方々と協力しながら、一人でも多くの外国の方々の支援をしていきたいと思っています。(福祉総合センター日本語サロン 緒方 理世)



地球家族

少しの勇気を一国際親善の観点から

世界に紛争は絶えず、そこには憎悪が渦巻く。一方、自らの危険を顧みず他を助けようとする人も少なからず。

- (1) 2001年 東京山手線新大久保駅で泥酔した男性がホームより転落し、居合わせた韓国人留学生が救助しようと線路上に飛び降りたが、侵入してきた電車にはねられ死亡する。
総理大臣書状と警察協力賞を贈る。
- (2) 1957年 和歌山日御碕沖で炎上中の木材運搬船高砂丸を航海中のデンマーク船エレンマークス号が発見したが、悪天候のため救出に難航する。
高砂丸から海に転落した者を救おうと工号のクヌッセン機関長が海に飛び込むも荒れ狂う波にのまれてしまう。顕彰碑と胸像を建て毎年慰霊献花を行う。
- (3) 1889年、国際親善の任を終えトルコ軍艦エルトゥールル号は、その帰路、熊野灘で悪天候の為、座礁沈没する。
辛くも岸にたどり着いた乗組員に対し、地元民は総出で救助看護に当たる。この結果165名中69名が救出され、後に日本軍艦によりトルコに送り届けられる。時移り、1985年イランイラク戦争の折、イラン在住の日本人救出に苦慮していた時に2機のトルコ航空の飛行機がイランに到着し日本人216名を乗せて飛び立つ。工号の際の日本の献身的な尽力に対するトルコの返礼とされている。

とかく我々は厄介なことに巻き込まれたくはないとして時には見て見ぬふりをしてでも平穩無事に過ごしたいとの風潮が強い。我々は家族や



友人には助力を惜しまないが赤の他人には無関心又は冷淡になりがちである。上記3例は自らの生命を賭しても外国人を助けようと果敢に行動したものであり、なんと崇高な事か。しかし彼等は人類愛や犠牲的精神を意識したものではない。いわば当然のこととして咄嗟の判断による。

何も大袈裟に考える必要はない。少しの勇気があれば良い。地球家族は同一のプラネットに住むファミリーである。世界には、その日の食にも窮する7千万にも及ぶ難民等が溢れている。我々はその家族に対して何か救いの手を差し伸べられないか。ちなみに日本への年間難民申請2万件に対して認められるのは実に、その0.001%である。(奥野藤樹)



私と外国語

第1回

国際交流の中で不可欠なのは外国語です。しかし、日本語は他の外国語と比べて、文字も文法も全く違う言語です。これが私たち日本人にとって外国語を学ぶ上で大きなハンディキャップとなっています。また古来から海に囲まれ外国文化に接する機会が少なかったことから、無意識のうちに外国語にコンプレックスを持つようになり、苦手意識を持つのは当然です。

このような背景のなかで、皆さんはどのようにして外国語に接し学習しているのか、苦勞話や感じていることを自由に投稿していただけます。

Let's learn foreign language.

私と外国語の関わりについて、まずは自分の記憶を紐解いていこうと思います。学生時代、語学には大変苦勞しました。「海外旅行に行って外国人とコミュニケーションを図りたい」という強い気持ちはあるものの、気持ちは先走るばかり。単語を覚えるのに大変苦勞し、文法を理解するのに苦戰しました。そして何より、英語を目の当たりにすると、頭の中が真っ白になってしまって、自分の口から言葉が出てこない。どうして私はこんなにも英語が苦手なのか。原因はわからないままでした。

社会人になってからも同様で、様々な教材、会社の福利厚生で受講できた通信教育など、いろいろと試してはみたものの、一向に効果は上がりません。だったら、ショック療法だ、ということで、会社の有給休暇を使って、海外への一人旅に挑戦したりもしましたが、ほとんど言葉を使わず、ろくにコミュニケーションも取れず、失意のまま帰国した、といった苦い経験もありました。この頃になると、「まずは、英語の苦手意識を克服しないとけない」と考えるようになっていました。

数年後、私は祖母の介護のため、実家に戻っていました。祖母は87歳の時にくも膜下出血で倒れ、一命はとりとめたものの、「万が一」の時のために、病院から連絡があった際にはすぐに駆け付けられるよう、強く言われていました。そんな折、大宮青少年会館で英会話クラブ（以下、クラブ）の募集をしていることを知りました。もう一度、基本から英語を学び直そうと思った私は、クラブに応募することにしました。

クラブは、日本人講師の先生が、英語の基礎から丁寧に教えてくれました。教え方も大変紳士的。発音が多少間違っても全然気にしない雰囲気は、気持ちに余裕を持たせてくれました。そして何より、クラブ生の方々が、楽しそうに英語を勉強しているのが印象的でした。英語って、こんなに楽しんでも良いんだ。心の中で、英語に対する苦手意識が少しずつ薄らいでいきました。後に知ったことですが、先生は、非常に高度かつ専門知識を要する医療通訳にも従事し、地

域に暮らす外国人の暮らしに多大な貢献をしているのです。クラブでは、毎年秋に開催される公民館まつりにおいて、英語のスピーチをするといった経験にも恵まれました。最初は緊張しましたが、先輩クラブ生の助けもあって、とても良い経験ができました。

英語に対する苦手意識は次第に克服されていったものの、依然として課題はありました。祖母は、数年にわたって小康状態を保ったまま。まるで、時計の針が止まってしまったような感覚でした。海外旅行には行けるはずもなく、遠方へ外出する際にも、非常に気を遣うといった生活が何年も続きました。海外旅行は当分できそうにない…。

そこで、私は少し考え方を変えてみることにしました。「岸和田に住みながら、外国人とコミュニケーションを図ることはできないか」と。幸い、クラブを通じて岸和田市国際親善協会の存在は知っていました。そこで、日本語ボランティアの存在を知り、13期の養成講座を受講することにしました。養成講座では、素晴らしい講師、そして同期の仲間に恵まれ、約2年間の講座はあっという間でした。おかげさまで現在、春木サロンにて活動させていただいております。岸和田に住みながら、外国人と接することができて、私の世界観はさらに広がりました。天国へと旅立った祖母も、きっと暖かく見守ってくれていることでしょう。

こうして振り返ってみると、外国語と向き合う転機となったのは、大宮青少年会館での英会話・スペイン語のS先生のおかげです。今年からは、スペイン語にもチャレンジしています。私の人生に多大な影響を与えてくださったS先生との出会いに、感謝の意を表して、第1回コラムの締めくくりとさせていただきます。（磯崎 大詩）



Information

■他団体との交流

公共交通機関を利用して「吹田市国際交流協会」を訪問します。
【と き】 12月13日(木)
*詳しくはチラシをご覧ください

■異文化理解講座

～バブアニューギニア&バングラディッシュ編～
【と き】 11月10日(土) ゲスト 大塚 充 さん
*詳しくはチラシをご覧ください

■地球村クッキング～ベトナム料理親子編～

【と き】 12月16日(日) 春木市民センター
*詳しくはチラシをご覧ください

■「ふれあい交流祭」スタッフ募集

【と き】 11月23日(祝・金) 現地集合
【と ころ】 関西国際センター 田尻町 10:30～16:00

■Mixed Roots

外国にルーツを持つファミリーの生活支援や学習サポートをお手伝いいただける方を募集します。
【と き】第2・4土曜日13:30～15:30
【と ころ】マドカホール3F 視聴覚室

■English Open Café

【と き】毎月第3土曜日13:30～15:30
【と ころ】マドカホール3F 視聴覚室
*申込みなしでどなたでも参加いただけます。

にゅとぴあ岸和田 No.116 編集担当

大塚 洋・緒方理世・奥野藤樹・栗尾宣子・塩屋 裕・三森すみ代
お問い合わせや感想などは事務局まで TEL&FAX (072)457-9694

事務局の e-mail アドレスが新しくなっています。
新しいアドレス kokusai@sensyu.ne.jp